

平成 26 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」  
成果報告書

団体名	富山県教育委員会
-----	----------

概 要

1 事業の概要

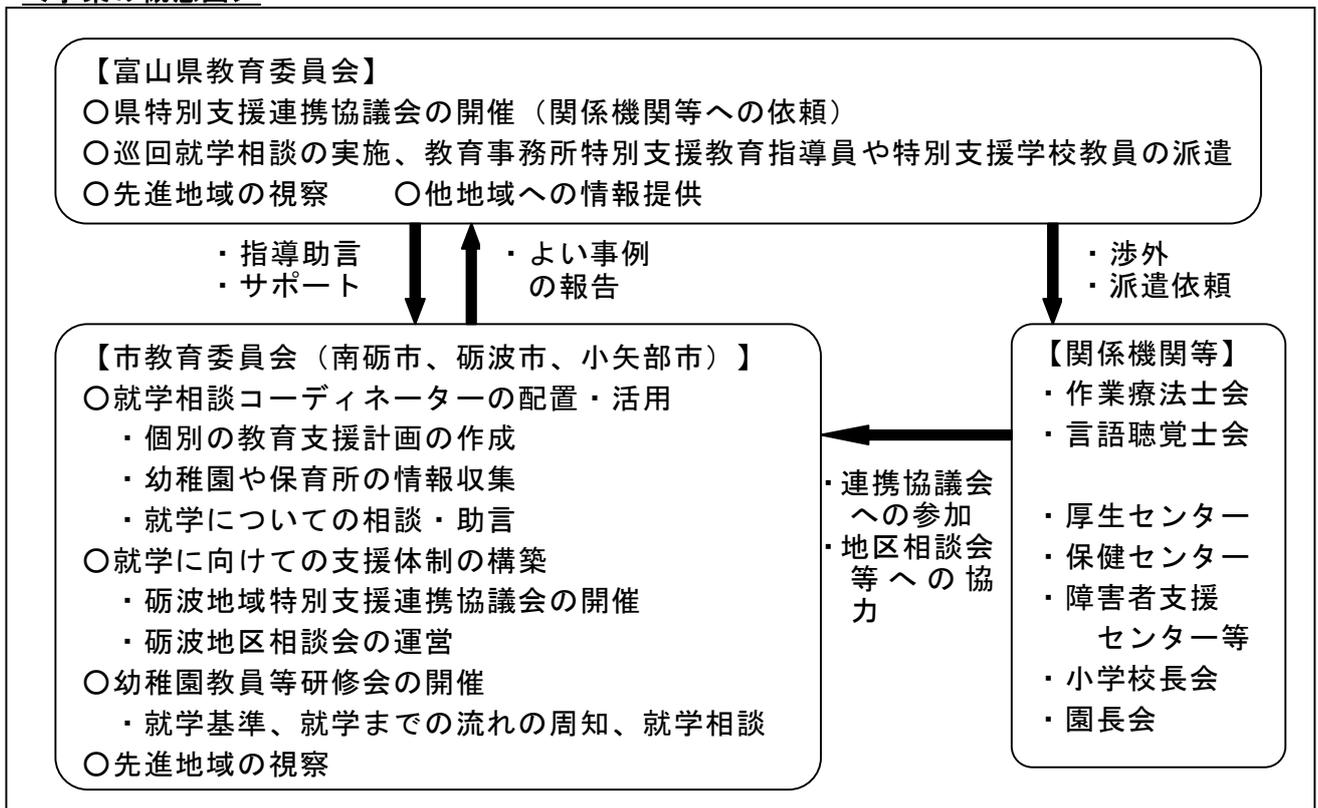
1 県における取組概要

- (1) 関係部局・機関等と連携協力のためのネットワークの整備
- (2) 市町村の取組に対する支援
  - ・ 推進地域への指導・助言
  - ・ 他地域への理解・啓発
  - ・ 特別支援教育に関する専門職員の派遣

2 推進地域（南砺市・砺波市・小矢部市）の事業内容

- (1) 個別の教育支援計画の作成・活用
  - ・ これまでの移行支援の実情把握
  - ・ 「引継シート（園用）」及び「連絡シート（保護者用）」の作成及び周知  
※シートの名称は、市によって異なる。
- (2) 早期支援コーディネーター（以下「就学相談コーディネーター」という。）等の配置
  - ・ 就学相談コーディネーターの周知
  - ・ 障害のある幼児の早期からの実態把握（地区相談会、就学時健康診断等への参加）

<事業の概念図>



## 2 事業の成果

### (1) 統括就学相談コーディネーターの配置

○各市の就学相談コーディネーターのほかに、推進地域を統括する就学相談コーディネーター（元特別支援学校長、推進地域の市就学指導委員会委員経験者）を1名配置した。それにより次の2点の成果があった。

- ・障害のある幼児児童に対する「支援」の研修会はよく実施するが、特別支援学校や特別支援学級への就学に向けてどんな準備や手続きが必要であるかの話聞くことはまれであった。特別支援学校長や市就学指導委員会委員の経験がある就学相談コーディネーターが講師であったからこそ有効な研修会になった。
- ・幼稚園、小学校及び地区相談会等で合意が図れなかった困難ケースについて、教育相談を依頼し、合意形成に至った。

### (2) 各市における就学相談コーディネーターの配置

○就学の仕組みが変わり、就学先決定についての市町村教育委員会の責任が重くなっているにもかかわらず、市町村教育委員会担当者が必ずしも特別支援教育に関する専門性を有した者ばかりではない。また、他の業務と掛け持ちであることが多いことから苦労しているという現状は、富山県内のほとんどの市町村で言えることである。そのような中、推進地域に指定した3市の担当者が「今年度は就学相談コーディネーターがいてくれてよかった」と口をそろえて言っていることが一番の成果である。

○南砺市と小矢部市では、特別支援学級担任経験のある退職した小学校教諭に委嘱した。小学校現場のことをよく知っているので、小学校に入学するとどんなことが懸念されるか、通常の学級や特別支援学級で学ぶとどんな良いことがあるかなど、タイムリーに助言できた。また、砺波市では、臨床発達心理士の資格を有する者に委嘱した。地区相談会等で気になる幼児の実態把握を的確かつ即時に行うことができた。さらに、医療や福祉等の機関との面識もあり、関係機関に即時に連携することができた。市教育委員会の担当者だけでなく複数の目で幼児の実態把握をできたことが良かった。

### (3) 就学支援シートの作成

○就学相談コーディネーターが中心になって、小学校が個別の教育支援計画を作成する基となる就学支援シートの素案を作ることができた。市によって、名称や体裁、作成の仕方に多少違いはあるが、保護者が小学校に伝えたいこと（療育歴、専門機関での相談内容、手帳の有無等）を書く「連絡シート（仮称）」と、園が小学校に伝えたいこと（園での様子、有効な支援等）を書く「引継シート（仮称）」の部分からできている。今年度末には、移行支援に向けて、この就学支援シートが有効に活用されることを期待する。

## 3 事業の課題とその解決のために必要な取組

### (1) 個別の教育支援計画の作成と活用

○今年度作成した就学支援シートを、平成27年度から初めて域内の幼稚園や保育所及び小学校で活用することになる。校長や園長、実際に活用している教員等にアンケートをとるなどして、項立てや作成の手順等の視点から使いやすいものに修正する。

### (2) 就学後の継続的な支援

○今年度、就学先を決定した児童の小学校での様子を、就学相談コーディネーターが小学校を巡回し、次の2点について調査する。

- ・幼稚園や保育所での支援の内容が引き継がれているか（小学校教員への聞き取り、就学支援シート等の活用状況）。
- ・学びの場は適当であったか（小学校教員への聞き取り）。

(3) 就学相談コーディネーターの人材発掘及び育成

○就学相談コーディネーターの配置について、県から人材のリストを示したものの、適任者の委嘱に苦慮した市もあった。今年度依頼した就学相談コーディネーターにいつまでも頼ることもできないので、人材の発掘及び育成が急務となる。